

熊本地震等における課題について

熊本地震等での課題

<参考文献>

- 熊本地震の概ね3カ月間対応に関する検証 (H29.3 熊本県)
- 平成28年度避難所における被災者支援に関する事例等報告書 (H29.4 内閣府) など

物資の不足

- ・発災直後は、多くの避難所で食糧等の物資が不足した。
- ・物資の仕分けや管理ノウハウの欠如、人員不足により市町村の物資集積拠点に物資が滞留した。(ラストワンマイル問題の発生)

食料管理

- ・一般の避難所においては、要配慮者(咀嚼機能低下者、疾病上の食事制限者、食物アレルギー患者(児)等)への食事の配慮は、6割以上の自治体で行われていなかった。
- ・食事の提供にあたっては、質の向上の確保についても求められた。

衛生管理

- ・断水等により衛生管理が不十分となり、食中毒や感染症等のリスクが高まった。
- ・ほこりや土ぼこりが舞い、ぜんそくや結膜炎などアレルギー症状が相次いだ。

寝床の改善

- ・避難所での段ボールベッド等の設置は自治体の65.7%が「取組が不十分だった」
- ・段ボールベッドは、ベッドからの転落リスク、起居時に手すりがないとなかなか起き上がれないなどの課題もあった。
- ・避難所での間仕切りの設置状況について、自治体の65.7%が「取組が不十分だった」
- ・間仕切り設置後は風通しや空調の効きが悪くなった、パーティションの脚につまずきそうになった、避難者の状況が見えにくく体調の把握が難しくなったという声もあった。

配慮が必要な方への対応

- ・避難所におけるバリアフリー、障がい特性への対応が不十分なため、やむを得ず車中避難する避難行動要支援者がいた。
- ・避難所等において外国人の避難状況等の把握が困難だった。
- ・避難所生活のルールの理解が難しい外国人も存在した。

男女別・子供への配慮

- ・男女別の更衣室や授乳スペースの設置など女性に配慮した運営が不十分だった。
- ・熊本地震での避難者に避難所内での男女別の配慮について伺ったところ、「男女別の配慮がなかった」が63.1%あった。
- ・「子供が夜泣きで迷惑をかけるといけない」という理由から駐車場で一晩明かしたという事例があった。
- ・子供が安心できるスペースや遊び場の確保などが必要であるとの声があった。

ペットへの対応

- ・ペットとの同行避難の可否等、個々の避難所情報が不足した。
- ・ペット同伴のスペースを設置してその場所を貼り出していたが徹底されず、一般のスペースにペットを同伴して就寝している避難所があった。
- ・ペット連れの飼い主が、乳幼児が避難していても平気で散歩したり排泄物を放置したりするマナー違反も散見されたという声や、アレルギーを持つ方とトラブルになった事例もあった。

車中泊対策

- ・車中泊等の指定避難所外の被災者の実態把握、情報や物資の提供が困難だった。
- ・発災直後にエコノミークラス症候群の患者が集中的に発生した。